



ICRC

FACTS & FIGURES

2014年6月

150 years
of humanitarian action

数字とグラフでみるICRCの活動



12,700人

の職員が84カ国で働いています

シリアにいる



54,794人

に安全な水を届け、衛生環境を整えました
また、



9,773人

に食料を届けました

世界中の



22,528人

に医療支援を届けました



イエメンにいる



881人

に生計に必要な肥料や種子、
農具などを配付しました

コンゴ民主共和国の子ども

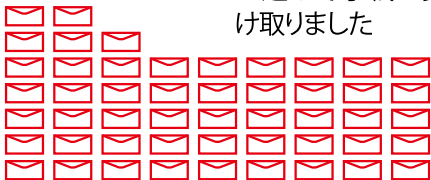


3人

が家族と再会を果たしました

307人

が、戦争によって
家族と離れ離れに
なった後、赤十字
を通じて手紙を受
け取りました



ラリビンで収容されている

218人を訪問しました

2013年の活動規模



ICRC本部



ICRC地域代表部



ICRC代表部

地域別ICRCの拠点

アフリカ	30
アジア・太平洋州	17
ヨーロッパ・南北アメリカ	27
中東	10

ICRCの職員数

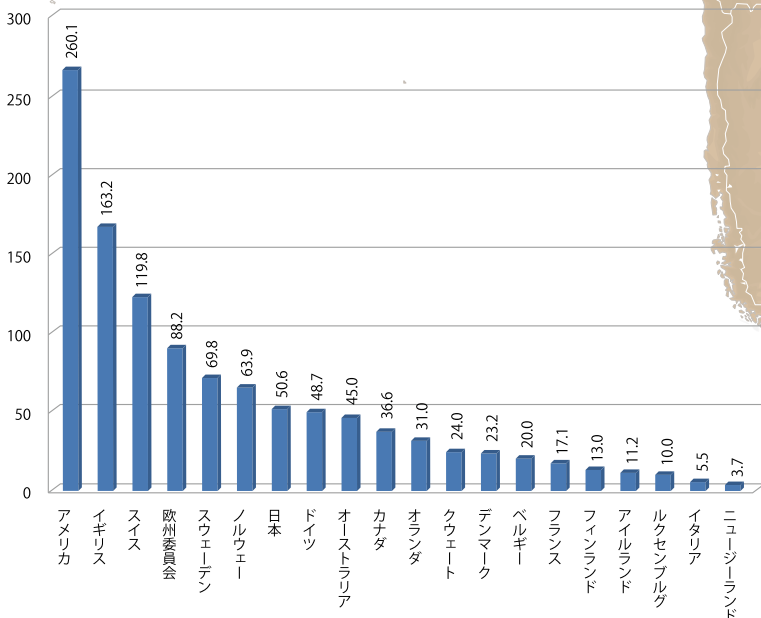
ジュネーブ本部 949人

フィールド 11,784人

- 現地要員 10,183人
- 国際要員 1,461人
- 赤十字社・赤新月社スタッフ他 140人

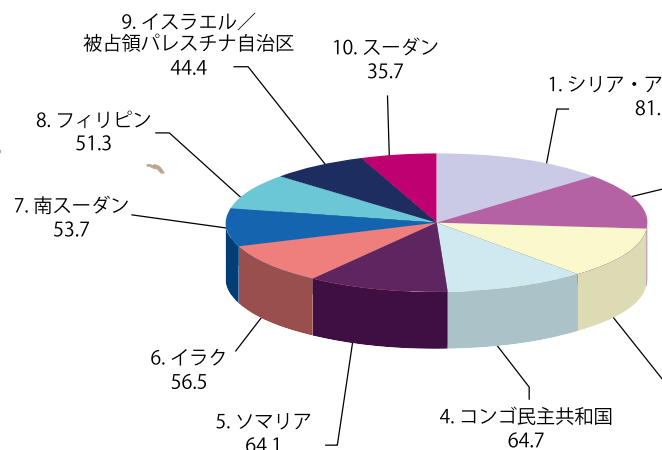


拠出額 上位20カ国



単位：百万スイスフラン

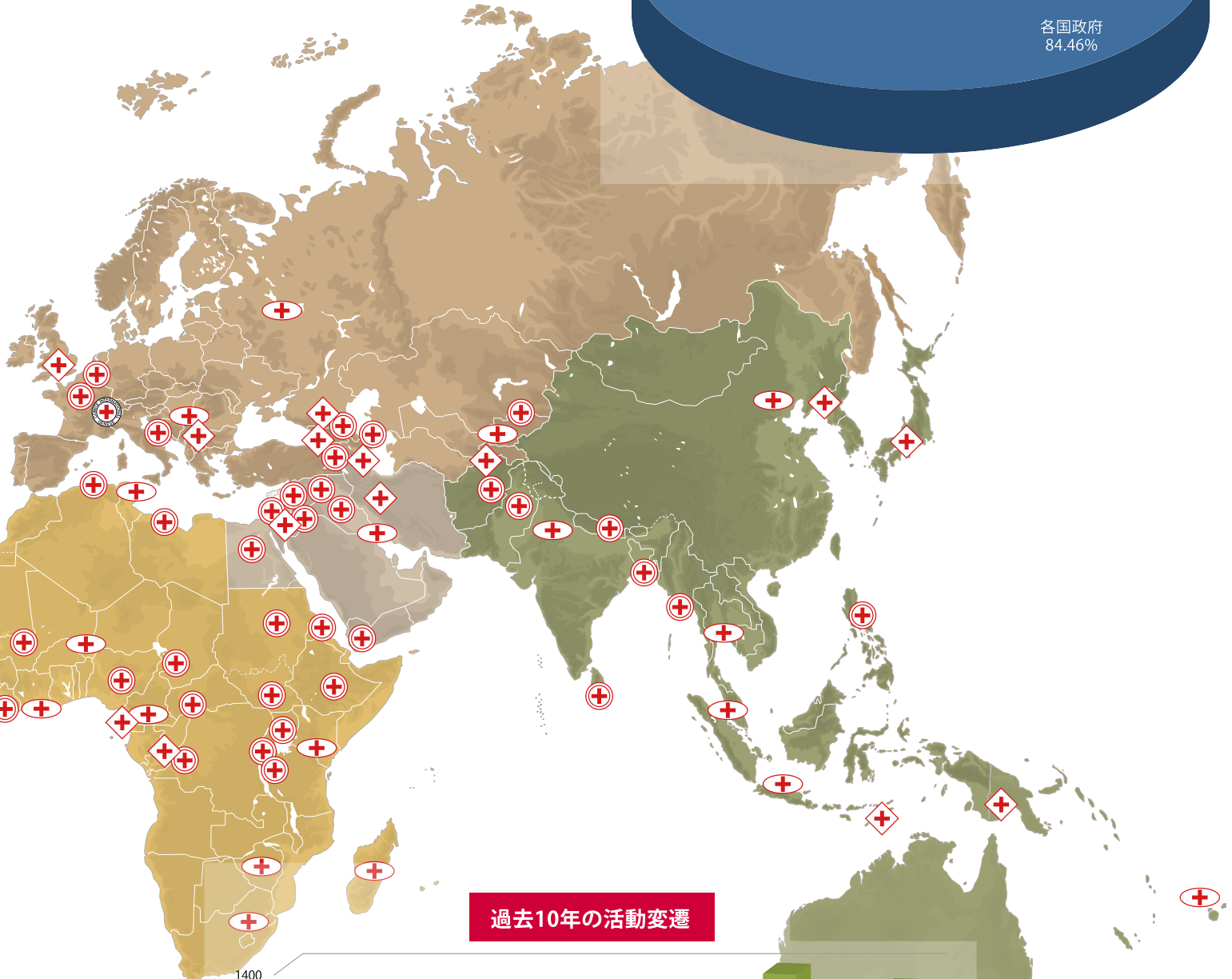
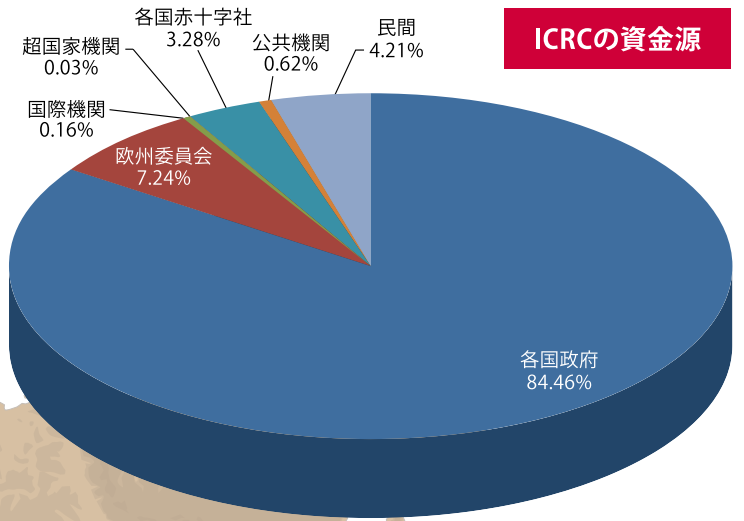
活動規模 上位10カ国・地域



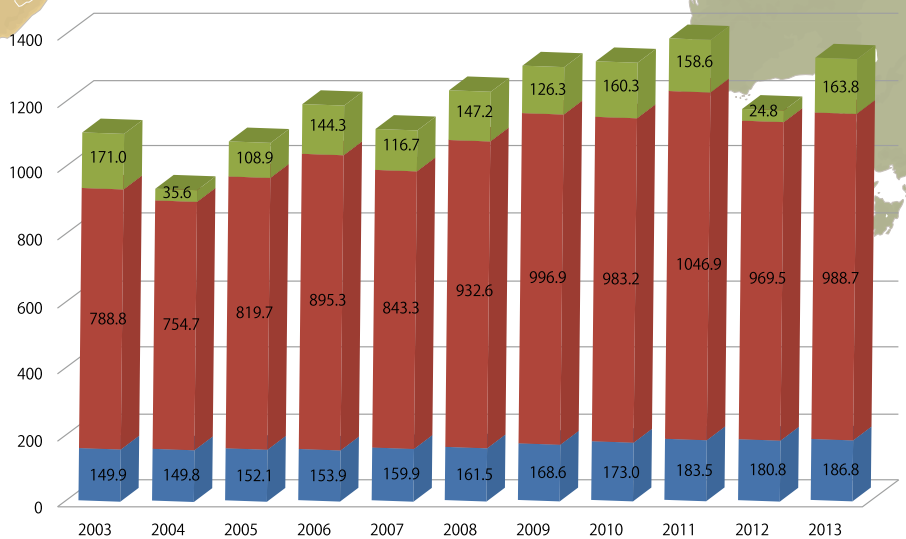


ICRC事務所

ICRCの資金源



過去10年の活動変遷



ラブ共和国
3

2. アフガニスタン
76.8

3. ニアマー
(ニジェール、マリ)
73.1

単位：百万スイスフラン

単位：百万スイスフラン

1スイスフラン=約118円 (2013年12月末日時点)

一年間のICRCの取り組み

被拘束者の訪問



96の国・地域にある1728の収容施設において75万6158人の被拘束者を訪問。うち、2万3473人(女性773人、未成年1226人)と個別に面談しました。被拘束者のうち、2013年が最初の訪問・登録となったのは1万3239人(女性449人、未成年1111人)です。ICRCの支援により、1万3076人が家族と面会しました。

各国赤十字社・赤新月社との協力



ICRCは各国の赤十字社・赤新月社と協力関係や対話を拡充しながら、紛争やその他暴力の伴う事態に苦しむ人々への支援をより手厚くすることを目指しています。2013年には、ICRCの活動の35%が各国赤十字社・赤新月社との連携によるものです。

プログラム別内訳は、支援:42%、保護:36%、人道支援の普及:31%となります。

医療支援



326の病院と560の医療施設を支援し、約822万3000人が恩恵を受けました。コミュニティベースの保健・衛生プログラムは25カ国で実施。武器による負傷者1万3600人とその他の理由による負傷者11万2400人が、31カ国にあるICRCの支援する病院に運ばれ、15万件の外科手術が行われました。

医療施設や医療活動従事者へのやまない攻撃

2012年1月から2013年12月までの2年間で、患者や医療従事者、救急車、医療施設に対する脅迫や攻撃が23カ国で1809件に上ったことが独自の調査で判明しました。



医療従事者の168人が殺害され、267人が負傷、564人が誘拐または拘束、212人が脅迫されました。この数字には、医師、看護師、救急員、薬剤師などが含まれます。



殺害または負傷した患者は545人。この数字は、治療の最中や病院に向かう途中で、傷を負ったり病気になる人を含みます。



攻撃または略奪された医療施設は410カ所。この数字には、病院、保健所、薬局などを含みます。



救急車351台。この数字には攻撃や略奪を受けたり、外的要因で遅れが生じた救急車が含まれています。

1809という被害件数は、世界的にみると氷山の一角かもしれません。しかし、ICRCは患者や医療従事者、救急車、医療施設に対する攻撃が増加傾向にあることに警鐘を鳴らし、現場に派遣される医療チームを緊急に保護する必要があると訴えています。

家族の再会支援



13万5139通(うち被拘束者からは2万1435通)の赤十字通信が寄せられ、11万2413通(うち1万3865通は被拘束者宛)を届けました。また、35万7058件の家族間通話を支援しました。訪問した被拘束者の所在を知らせるため、ICRC職員が家族にかけた電話は1万664件に上りました。

ICRCは保護者がいない、または引き離された2679人の子どもを登録しました。その中には軍から解放された775人も含まれます。家族がみつきり再会を果たした子どもは1476人。家族の消息について情報を掲載するICRCのウェブサイト「ファミリー・リンク」には3万1492人の氏名が公開されました。

水と住宅



ICRCのエンジニアや技術者は、58カ国で水・衛生施設の建設業務を展開し、2870万7000人が恩恵を受けました。彼らは国内避難民、帰還者、地元住民で、その多くは都市部から離れ、アクセスの難しい地域やインフラ不足、安全でないなどの理由により支援が行き届きにくく、移動の自由が制限された地域に住んでいます。このうち、30%は女性で、40%は子どもでした。

生計の安定



55カ国において各家庭の経済的安定を目的とした支援を行いました。国内避難民や帰還者、地元住民、自由を奪われた678万6000人に対しては食料支援を、346万6000人には日用品や衛生用品を提供しました。461万9000人が持続可能な食料生産プログラムや少額融資制度を通じた生活支援を受けました。また、352万6000人が就労機会を得たり、職業訓練を受けました。

障がい者支援

ICRCの物理療法士は27カ国と1地区の90施設で支援を提供し、28万3691人の患者がサービスを受けました。施設では、2万2119の人工装具と6万8077の整形器具を生産しました。また3743脚の車椅子と3万8679本の松葉杖および杖を配付し、多くを当該国内で生産しました。

法医学サービス

行方不明者の捜索や保護を目的とした法医学サービスを50カ国以上で提供。主に遺体や遺留物の特定等、過去の経験を基に、支援しました。

人道法教育

各国の教育機関と赤十字社・赤新月社はICRCから支援を受け、人道法と人道教育が学校のカリキュラムに正式に取り入れられるよう働きかけました。1万人が国際人道法教育プログラム(EHL)に参加しました。また、国際赤十字・赤新月社連盟や各国の赤十字社・赤新月社と協力して人道教育のコンセプトを統一し、オーストラリアで開催された国際赤十字代表者会議で「人道教育プラットフォーム」を立ち上げました。

武器汚染処理

武器汚染処理の分野では、27の国と地域において各国赤十字社・赤新月社、国内行政機関をサポートしました。

広報活動

2013年もICRCの人道支援活動はメディアで広く取り上げられました。ICRCがマスメディアで言及されたのは1万5000回でした。

アカデミックとの関係構築

80カ国以上の大学において人道法関連の授業をサポートしました。300人の教授、講師、大学院生が参加する人道法に関する地域別または国際的なトレーニングセミナーを12回開催しました。また人道法に関する地域別コンペは6回開催されました。



赤十字国際委員会 駐日事務所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 5-13-1 虎ノ門 40MT ビル 6 階
TEL : 03-6459-0750 / FAX : 03-6459-0751
Twitter @ICRC_jp

ICRC

ICRC駐日事務所

検索